

2020年3月24日／12月24日

晩年の大澤文夫さん

名大・理・物理 岡本祐幸

大澤文夫さんに初めてお会いしたのは、私が名大物理学教室の生物物理学の教授に2005年に着任した1、2年後だったと思います。野依学術交流館で開催された研究会に大澤さんも参加されていて、その休憩時間に垣谷俊昭さんの後任教授ですと言って自己紹介をして、昔の名大物理学教室の話などを伺いました。ということは、大澤さんは84、5歳だったということです。話が弾んで約30分間話をしました。私の第一印象は、失礼かも知れませんが、お年なのに頭脳がすごく明晰だという事でした。特に、昔のことをよく覚えていらっしゃると思いました。そして、神山勉さんが編集長を務めていた名大理学同窓会報の企画で大澤さんにインタビューをすることになった時に、大澤さんがインタビューアーとして指名されたのが私でした。弟子でも何でもない私で良いのかと躊躇しましたが、大澤さんの指名ということですので引き受け、2009年4月25日に約4時間に渡りインタビューしました（名大理学同窓会報 No. 12, 「大沢文夫名誉教授に聞く」, pp. 6-10 (2009)）。ここでも大澤さんの記憶力のすごさに圧倒されました。何もメモを持っておられなかったのに、次から次へと話が進みました。例えば、1945年3月25日に名古屋大空襲があって、物理の学生が一人亡くなったので、急遽信州などに疎開することになったとおっしゃいました。日にちの確認のために、あとでGoogleで「名古屋大空襲」を検索しましたが、3月12日、19日、5月14日とあって、3月25日のことは何も書かれていませんでした。さすがの大澤さんも間違えたかなと思いました。念のために「名古屋大学五十年史」で確認したところ、「3月25日」とあり、大澤さんが正しいことが分かりました。

私は恥ずかしながら、名大に着任するまで大澤さんがどのような研究をされてきたのかほとんど知りませんでした。少し調べて、まず、有名な「朝倉・大澤理論」の枯竭力の論文が1954年に書かれたことを知りました。それで、その60周年を祝う国際会議 “Nagoya Symposium on Depletion Forces: Celebrating the 60th Anniversary of the Asakura-Oosawa Theory”を2014年3月14、15日に名大で開催しました。約100名の国内外からの参加者を得て盛況でした。1日目に大澤さんと朝倉昌さんの講演時間を1時間ずつ用意したところ、朝倉さんが講演を固辞されたので、大澤さんが2時間連続して話されました。ところが、大澤さんが話し足りないとおっしゃったので、急遽プログラムを変更して、翌日にも約1時間の講演時間を設けました。この前後から、大澤さんが介護施設の食事に飽きてしまったので、外

に連れ出して欲しいということを伺い、難波啓一さんにどこへ招待すれば良いかをアドバイスしてもらい、何度か、木曽路のすき焼きとか東急ホテルのビーフシチューなどのランチを食べて頂きました。その時に会話を録音させて頂きました（ランチインタビュー）。ランチインタビューと言えば、その一つに奥様と見合いをした時の話があります。いつも自分の話をしているが、家内のことも話しておきたいと前置きされました。この録音は、昨年（2019年）12月に阪大で開催された追悼会で流しましたが、皆さんが歓談中でほとんど聴き取れなかったと思いますので、以下にまとめます。

2013年5月24日京都の「南禅寺ぎんもんど」で阪大や名大の人達と一緒に行ったランチインタビューです（私以外では、宝谷紘一さん、柳田敏雄さん、難波啓一さん、根岸瑠美さん、介護の平澤美幸さんが参加しました）。1947年3月に名大物理の同僚の高林武彦さんの友人で、小説家・詩人の富士正晴（本名：富士正明）さんの妹さんの富士安子さんと見合いをしたそうです。安子さんは（現）洲本高校の先生をされており、大阪茨木の富士さんの自宅（お父さんが日赤病院で事務長をされておられたので、その宿舎）でお見合いをしたそうです。終戦後で国鉄の切符を手に入れるのも困難で、大澤さんの研究室の学生さんが2名交代で、名古屋駅に朝から並んで切符を取ってくれたそうです。富士さんは自由業のような商売で、大澤さんも自由業のようなもの（つまり、安月給だったので。当時の助手の月給は70円で、教授は200円ぐらいだったそう）なので、理解してもらえるだろうと思い、行く前から心を決めて行ったそうです。見合いの部屋にはご両親と富士正晴さんと大澤さんが入り、隣の部屋には富士正晴さんの（詩作の？）弟子の伊東幹治という人（エスペラント語を発明したザメンホフの伝記を書いた人）が、たまたま（？）入っていたそうです。富士さんが2つの部屋を行き来し、隣の部屋に入ると伊東さんが一言喋るたびに大笑いをする人で、2人で一言二言話をすると伊東さんの笑い声が聞こえてきて、また見合いの部屋に戻ってきたりというのが続いて、約1、2時間後にととう安子さんが見合いの部屋に現れたそうです。その姿はまるで舞台上に立つ女優のようにフルにお化粧して、安子さんの真剣度が伝わってきたそうです。もっぱら富士正晴さんが喋って喋ってお見合いは無事終わり、大澤さんはその宿舎に一泊させてもらって翌日名古屋へ帰ったそうです。何となく決まって、2ヶ月に1回安子さんに会いに大阪に行ったそうです。そして、1948年7月に結婚されたそうです。見合いから結婚まで、そんなに時間がかかったのは、大澤さんの名古屋の実家は（空襲で）焼けてしまい、夫婦が住める家がなかったからだそうです。そして、戦後すぐでアパートも借家も少なかったからだそうです。大澤さんも名大の研究室に寝泊まりされていたそうで、蚊が多くて、蚊を叩きながら寝たそうです。坂田昌一さんの弟さんの静間さんという名大数学科の先生が、なぜか知らないけれど、大澤夫妻と大澤さんのお母さんが一緒に住

める借家を見つけてくれて、それでやっと結婚できたのだそうです。

名大には坂田記念史料室が2008ノーベル賞展示室にあり、素粒子論の坂田昌一さんに関する膨大な史料が保管されています。実は、そこには、同じ名大物理学教室の有山兼孝さん（物性物理学）と早川幸男さん（宇宙物理学）の史料も保管されています。私はそこに大澤さんの史料も保管したいと思い、坂田記念史料室長（名大物理の素粒子論の同僚）に提案しました。その時、室長に言われたのは、あなたは元々素粒子論の研究者だったから、坂田記念史料室の室長を務めることができますと思います。室長を代わってもらえるなら、大澤史料を保管するのを許可しましょうということでした。それで、快諾し、大澤史料を置かせて頂くことになりました。現在、大澤さんが大学生時代に手書きで写した Gibbs の統計力学の教科書のコピー、朝日賞受賞盾、国際会議 Third International Conference on the Structure and Function of Ubiquitous Cellular Protein Actin (Actin 92)で授与されたアクチンの金属模型（以下の写真参照。台に以下の文章が書かれています。In Recognition Of PROF. FUMIO OOSAWA For His Many Contributions To Actin Research。この模型の謂われを教えて頂いたラトガーズ大学の松村文夫氏に感謝します）、大澤さんが書いた英文の教科書、F. Oosawa, “Polyelectrolytes” (Dekker, 1971)と F. Oosawa and S. Asakura, “Thermodynamics of the Polymerization of Protein” (Academic Press, 1975)、名大物理 K 研メンバーの出席名札（在室中は黒色の札、不在中は裏の赤色の札）などが保管されています。また、葛西道生さんが亡くなった時に、神山勉さんと一緒に葛西さんの大阪のご自宅を訪問して、阪大基礎工の大澤・葛西研の写真や史料も頂いてきて、坂田記念史料室の大澤棚に保管しています。読者の皆さんも何か大澤さんに関する史料がお手元にありましたら、ぜひ、坂田記念史料室に寄贈して頂けると幸いです。宜しく申し上げます。



Actin 92 で授与されたアクチンの金属模型（左）と朝日賞盾（右）。



2009年4月25日。名大理学同窓会報のためのインタビューを終えて。左から杉本耕一さん、岡本、大澤さん、根岸瑠美さん。



2014年3月14日。朝倉・大澤理論60周年国際会議での大澤さん（左）と朝倉昌さん（右）。



2013年5月24日。京都でのランチインタビューにて。前列中央が大澤さん、後列右から宝谷紘一さん、平澤美幸さん、難波啓一さん、柳田敏雄さん、根岸瑠美さん、岡本。